

2027 年度入試 入試問題作問方針 (適性検査 40 分 一般入試 50 分)

本校の入試問題は、公立高校の入試問題同様、中学の基礎基本を問うことを目的としています。教科書中心の確実な復習や公立高校の過去問題が本校の入試の対策になります。なお出題形式は、都立高校に概ね準拠しています。

英語

<出題範囲のねらい>

中学3年間で学習した内容を理解しているかを見るのがねらいです。読解問題では、記述形式の問題において、自ら考えて答えを導き出す力及び、必要な情報を把握する力が求められています。リスニング問題では相手の反応を予想し、その場の状況を判断する力を測ります。

学習のポイント



出題形式は都立高校に概ね準拠しています。その為、教科書の復習や公立高校の過去問題を解くことが本校入試の対策をする上でも参考になります。また、様々な形の記述問題にも慣れて下さい。新課程で取り入れられた、仮定法等の文法事項も取り入れますのでしっかりと学習して下さい。リスニング問題も出題されるため、日頃より英語を聞く習慣をつけ、内容を理解できるようにすることが大切です。

■推薦入試(適性検査:解答形式がマークと記述の併用)

文法・語彙、図表、会話文、長文の4部構成となっています。

文法・語彙:これまで学習した各文法項目及び単語・熟語を理解しているかを測ります。

図表 :図表を見て、それらを基に内容を把握して、設問に答える形式です。

会話文 :会話の内容を理解し、その状況に応じた設問に解答する形式です。

長文 :都立入試と同程度の長文を読み、内容一致問題をはじめとして、幅広く出題をします。

文法・語彙、図表は選択式の設問、長文、会話文は選択式及び記述式の設問があります。

■一般入試(学科試験:解答形式がマークと記述の併用)

リスニング、図表、会話文、長文の4部構成となっています。

リスニング:会話の応答を聞いて答える形式です。

図表 :図表を見て、それらを基に内容を把握して、設問に答える形式です。

英作文も出題します。

会話文 :会話の内容を理解し、その状況に応じた設問に解答する形式です。

長文 :公立入試と同程度の長文を読み、同形式で出題をします。

リスニング・図表は選択式及び記述式、長文・会話文は選択式の設問があります。

■ 国語

<出題範囲のねらい>

中学3年間で習得した国語力を総合的に確認することがねらいです。漢字の読み書きの力や語彙力、文章を読解する力や人に伝えるための表現力は、学校や入試での“国語”という教科にとどまらず、社会に出てからも必要とされるものです。その基礎的な力の到達度をはかります。

学習のポイント

本校過去問題はもちろんのこと、都立・公立高校の過去問題を解くことが対策になります。中学の教科書の復習（本文の読解や漢字・語句の習得など）を行うとともに、国語知識（文法、対義語・類義語、慣用句など）への理解を深めておくといでしょう。漢字検定の学習をするのも一つの方法です。

古典について、推薦入試では古文、一般入試では現古融合問題を出題しています。以下の内容に注意してください。

■ 推薦入試（適性検査：解答形式がマークと記述の併用）

国語知識、現代文、古典という構成になっています。

国語知識は、漢字の書き取り・読み（難易度は漢字検定5級から3級程度）をそれぞれ3問ずつ、さらに文法問題などを出題します。

現代文は、本文の内容読解や語句解釈、記述問題など標準レベルの問題を出題します。記述問題は都立と異なり、50字程度のものを1問出します。

古典では、古文をもとに歴史的かな遣いや古語の意味、本文の内容に関することなどを問います。

■ 一般入試（学科試験：解答形式がマークと記述の併用）

国語知識、現代文2題、古典という構成になっています。

国語知識は、漢字の書き取り・読み（難易度は漢字検定5級から3級程度）をそれぞれ3問ずつ、さらに文法問題などを出題します。

現代文は説明的文章と文学的文章の計2題から、内容読解や語句解釈、記述問題など標準レベルの問題を出題します。記述問題は都立と異なり、50字程度のものを1問出します。

古典では、都立高校で見られるような「現古融合問題」を出題します。

数学

<出題範囲のねらい>

中学校3年間で学習した数学の内容について、中学校段階で身につけるべき知識・技能が習得されているかを確認します。
特に、計算力や公式・定理などの活用といった基本的な技能に加え、数学的に筋道を立てて考え、問題を解決する力を重視しています。
これらの力は、高等学校の数学を学習していく上で重要な基盤であるため、これまでの授業で身につけた知識や技能が十分に発揮されるような出題を心がけています。

学習のポイント

教科書の内容をしっかりと復習することが大切です。
計算問題については、基本的な問題を繰り返し解くことで計算力をつけましょう。
また、公式や定理などをただ覚えるだけでなく、どのような場面で活用するのかを理解することが重要です。
証明問題は、推薦入試では穴埋め形式、一般入試では記述形式で出題します。教科書で学んだ証明の例を見直し、実際に手を動かして練習しておくとい良いでしょう。
また、作図問題は出題しません。

■推薦入試(適性検査:解答形式がマークと記述の併用)

問題は大問5題です。

①は小問形式で、数・式と方程式の計算、関数、図形、確率、データ整理と活用など、中学校で習う基礎的な計算問題を出題します。②は文字式を利用した問題、③は関数の利用、④は平面図形、⑤は空間図形から出題します。
③～⑤の1問目は基本的な問題なので、確実に正解できるようにしましょう。
作図問題は出題しません。また、②で穴埋め形式の証明問題を出題します。

■一般入試(学科試験:解答形式がマークと記述の併用)

問題は大問5題です。

①は小問形式で、数・式と方程式の計算、関数、図形、確率、データの整理と活用など、中学校で習う基礎的な計算問題を出題します。②は文字式を利用した問題、③は関数の利用、④は平面図形、⑤は空間図形から出題します。
③～⑤の1問目は基本的な問題なので、確実に正解できるようにしましょう。
作図問題は出題しません。また、②と④で記述形式の証明問題を出題します。

理科

<出題範囲のねらい>

中学校3年間で学習する理科の知識が正しく定着しているかを問います。高校入学後も物理・化学・生物を中心により専門的な内容を学んでいきますが、既習事項がベースになることは変わりません。与えられたデータを活用し、「なぜこのような結果に繋がるか」を論理的に組み立てていく思考力が身についているかを確認します。

学習のポイント



教科書で紹介されている観察・実験について操作や予測される結果についてまとめておき、そのねらいや理論などを正確にとらえておくことが重要です。化学反応式や計算式を書くものもありますが、多くが選択肢から適切なものを選ぶ問題となっているので、問われている内容に沿った解答ができるよう、じっくり問題文を読む習慣をつけておきましょう。

■推薦入試(適性検査)

英国数の3科のみ実施

■一般入試(学科試験:解答形式がマークと記述の併用)

問題は大問5題で構成されており、さまざまな単元からバランスよく出題されます。化学反応式や計算数値を記述する問題も出題されますが、それぞれの分野に関する基本的な内容を問うことが多く、難易度は標準的なものになっています。大問①は知識を問う問題が中心になっていますが、大問②・③・④・⑤は各単元に関する観察または実験について問うものが出題されます。

■ 社会

<出題範囲のねらい>

難易度は教科書レベルです。基礎力をみる問題が中心となります。
出題語句のレベルは教科書に対応した形ですが、情報を読み取る力や資料等を用いて答えを導き出すことも求められます。また地理と歴史など複数の分野にまたがる形で出題される大問もありますので、各分野に偏ることなく広い視野を持ち学習してください。

学習のポイント

難易度は教科書レベルです。基礎力をみる問題が中心となり、教科書の復習や公立高校の過去問題を繰り返し解くことで、本校の入試問題の対策となります。
出題語句のレベルは教科書に対応した形ですが、地理と歴史など複数の分野にまたがる形で出題される大問もありますので、各分野に偏ることなく学習することが大切です。
地理分野は、地形図や空中写真・風景を写した写真、統計より作成した各種グラフから地域の様子を読み解く問題があります。歴史分野では「世界の流れから見た日本」の視点を持ち、学習しておきましょう。記述問題は標準的な問題です。各グラフ、年表を読み取った上で解く場合もあります。普段から問題に慣れておきましょう。

■ 推薦入試（適性検査）

英国数の3科のみ実施

■ 一般入試（学科試験：解答形式がマークと記述の併用）

地理・歴史・公民分野と偏りなく出題されますが、各分野単独の問題もあれば複合問題もあります。①は3問出題される独立小問形式で、地理・歴史・公民分野からの問題。②・③は、地理分野（日本地理・世界地理）からの問題。④は歴史分野、⑤は公民分野が中心となります。⑥は各分野にまたがる形で出題されます。内容は教科書を基本とした形での出題となります。